Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース（季刊）
発行部数13万部・非売品

2020.7.20 Summer

No. 67

NEWS

新型コロナウイルス特集号

巻頭企画　新型コロナウイルスで障がい者施設は今
26施設に電話で緊急取材をしました

恐いけど、僕たち負けないよ

新型コロナウイルス特集号

新しい取り組みを見いだすチャンスに

公益財団法人ヤマト福祉財団 理事長　山内 雅喜

新型コロナウイルスの感染が世の中に広がり始めてもう半年になります。今回の感染症でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、ご自身の生活や施設運営に影響をお受けになられている方々に心よりお見舞い申し上げます。

今回は巻頭企画として、コロナ禍の影響を受けている中、みなさんがどのように向き合っているのか、どんな工夫をされ頑張っているのか、少しでもお互いの参考になることがあればと思い全国の施設にヒアリングを行いました。

仕事が減ってしまったので新たにマスク製作を始めたり、売り上げ確保のために初めてSNSやWebを使って宣伝をしてみたり、忙しい農業をみんなで手伝ったりと、自分たちでできることを一所懸命見つけています。こんな状況だからこそ、ふだん気づかないことに気づくことができたという声も多数ありました。

人には知恵があります。嘆いているだけではなく前を向いて進んでいこうとする力があります。今までもたくさんの苦労・努力をされてきたみなさんだからこそ、この厳しい時を乗り越えていかれることと信じております。

ヤマト福祉財団も少しでもお役に立てることを見つけてまいりますが、今回はその一つとしてヤマト福祉財団の奨学生へ「緊急見舞金」を支給しました。

アルバイトがなくなり生活が厳しい、リモート授業を受けられる環境がない、などの声に応えるものです。大きな志や夢をもって進学されている若者がこれからも頑張って勉学を続けていけるよう、心から応援してまいりたいと考えています。

コロナ禍への対応はたしかに大変です。しかし、これにより私たちは今まで気づかなかったことに気づき、新たな取り組みを見出していけるチャンスを得ているのかもしれません。お互いの工夫を共有して、みんなで乗り越えていきましょう。

CONTENTS

表紙写真　リモート取材をさせていただいた全国の施設のみなさんの写真で構成しました

03 巻頭企画　新型コロナウイルスで障がい者施設は今
26施設に電話で緊急取材をしました
恐いけど、僕たち負けないよ

08 寄稿
新型コロナと障害者
きょうされん専務理事　藤井克徳

10 在宅支援中に育ててきた野菜の苗をその手に
約50日ぶりにおもやの田畑へ
利用者さんたちが帰ってきました（NPO）縁活 おもや

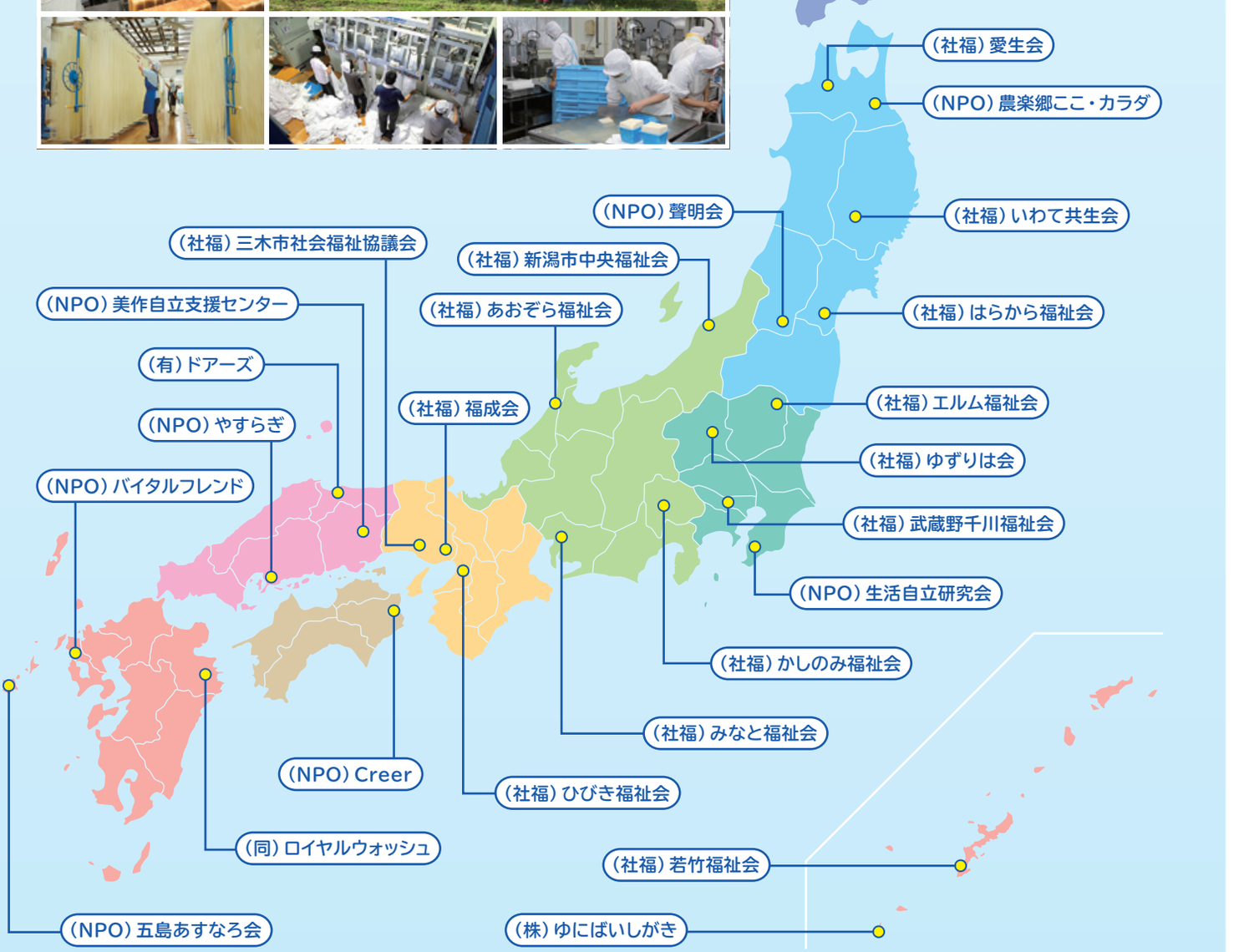
12 贊助会員のみなさんへ── 財団のしごと
「福祉助成金編」
障がい者の自立のため福祉助成金は
どのような仕組みで活用されているかご存じですか？

日本障害フォーラムが推進するイエローリボン運動に賛同しています。

恐いけど、僕たち負けないよ

26施設に電話で緊急取材をしました

新型コロナウイルス感染拡大の緊急事態宣言下、ヤマト福祉財団では26ヵ所の施設に電話取材で状況をお伺いしました。
通所の自粛を行ったところは6施設、停止措置をとったところは2施設。利用者さんが不安を訴え在宅支援を行っているところもありますが、大半の施設は通常通りに開所を続けています。しかし作業の仕事量、売上となるとそうはいきません。コロナ禍をどう乗り切るか、みなさんの声をお届けします。



就労移行支援

（有）ドアーズ／鳥取県倉吉市

ペットフード製造

幸運に恵まれ業績は好調

鳥取県では感染者が少なかったためドアーズとしては落ち着いた雰囲気で仕事ができています。今回の新型コロナウイルスの影響により在宅者が増え、家庭でペットと過ごす時間が増えたことにより受注は3割増となりました。

また操業停止となった地元企業の社員をアルバイトの形で受け入れて地域貢献も行うことができています。

就労継続支援B型、就労移行支援、他

（社福）はらから福祉会／宮城県柴田郡

食品製造・販売

地域や取引先と築いた関係に助けられる

7事業所のうちイベントの中止や取引先の休業で4事業所が2～4割の売上減、3事業所が売上増。ネット注文やふるさと納税が増え、牛タンは通常の8倍、プロテイン製造を行う事業所も2～3倍の受注がありました。法人全体としては黒字です。

毎月1万枚を使うマスクで困ったとき、真っ先に連絡を下さった取引先、給食がなくてもクリエイト柴田のパンが食べたいと購入していただいたお客さまもいます。今まで地域の方や取引先と地道な関係を築いてきたこと、一つひとつ職場や衛生環境を整えてきたこと、お客さまに支持される美味しい食品を作り続けてきたことが、コロナ禍の大変なときに生きていると思います。

就労継続支援B型、生活介護

（社福）みなと福祉会／愛知県名古屋市

中華まん製造、弁当製造

ネット販売で注文が10倍増

コロナの影響で在宅時間が増えたことによりネット注文が増えています。中華まんは昨年の10倍の注文が全国から殺到しました。4月からは平均給料も3万円を超えることができました。

利用者さんには自宅待機希望者以外は通常勤務をお願いしています。行動制限もあって不自由な思いをさせているので楽しみを増やす努力をしたいと思います。

就労継続支援A型、B型

（NPO）カムイ大雪バリアフリー研究所 チーム紅蓮／北海道旭川市

プリント事業、バリアフリーのスポーツや観光イベント企画運営

Facebookで発信、仕事の紹介もいただいています

学校やスポーツ関連、飲食店などのイベントで使うオリジナルのプリントTシャツやタオル、横断幕やプレートのデザイン・制作を主な事業としているチーム紅蓮。2018年度当財団の助成で、刺繍ミシン・UVプリンター・自動プレス機を整備し、さらに売上を拡大していたところでした。ところが新型コロナ感染拡大により、春のイベントがことごとくキャンセルになり、売上は半分に。車椅子でのバリアフリー観光ツアーも、観光客がいないので車椅子レンタルもできません。

しかし施設長の五十嵐正幸さんは前向きです。昨年受注した高速道路のサービスエリアにひまわりを植える事業を今年も受注、地元のバス会社の制服にマスクがセットになったため、そのマスク制作も受注しました。「Facebookで利用者さんも事業所の様子を発信することでネットワークが広がり、仕事の紹介や情報もいただいています。年度の後半に巻き返せるよう、新規事業や助成金に応募して持ちこたえます」と五十嵐施設長が応えてくださいました。

就労継続支援B型

（NPO）Creer／徳島県徳島市

弁当製造販売、カフェ

思わぬことから営業自粛に

子ども食堂・カフェは小学校の休校により、2月以降利用者が増えていましたが、4月に入って、一般市民より営業をとがめる電話が入り、県や市、保健所にも通報され自粛することになりました。お弁当事業は県庁を中心に注文を受けて配達していましたが、一般の料理店や居酒屋の弁当の寄付提供に押されて、売れ残ることが多く、こちらもやむなく中止。売上は7割減です。

利用者さんと職員の賃金を守るため持続化給付金を申請し、2ヵ所に分かれていた事業所を1ヵ所に集めることで家賃を節約します。自粛中の5月31日までに引っ越し、6月1日から再スタートを切りました。

就労継続支援B型、就労移行支援

（社福）かしのみ福祉会／山梨県甲府市

ドライフルーツ・クラッシュゼリー製造他

ネット販売の重要性に気づく

ドライフルーツやクラッシュゼリーはデパートや観光地など今までの販路がなくなってしまいました。そこでインスタグラムを始めるなど、ネット販売にも力を入れたことで、4月は昨年同月比で3割減にとどめることができました。

仕事を確保するために農家や企業に声をかけ、コンテナの洗浄やブドウのかさかけ、清掃の仕事をいただいています。コロナ以前の売上に届かなくても、忙しく仕事に取り組んでいます。ドライフルーツだけでなく、探して動いていくことで仕事があると気づけたことは収穫です。

就労継続支援B型、生活介護、他

（社福）ひびき福祉会／大阪府東大阪市

製菓・点心製造販売、ウエス加工他

後援会やご家族にも協力を

マドレーヌやフィナンシェなど、ホテルのスイーツを製造するハイワークひびき、バカ美味餃子など中華点心の製造販売を行うリーブひびきなど、B型事業所では、ホテルのパーティ、イベントの中止、販売店の閉鎖、休業などにより、売上は6割減になります。これを解消するため、ひびき福祉会で扱う商品のネット販売に力を入れました。焼き菓子の頒布会では家族などにもご協力いただき、後援会活動で積極的に物品販売を行いました。

就労継続支援A型、B型、就労移行支援、他

（株）ゆにばいしがき／沖縄県石垣市

農作物の生産加工・受託、観光ショップ・居酒屋の運営

コロナを理由に離職させない、減給しない

沖縄県石垣島で五つの事業所を運営するゆにばいしがきは、約100名の利用者さんが関わっています。石垣市緊急事態宣言の発令にともない、島間の移動禁止、もちろん観光客もゼロとなりました。B型事業所は自粛となり在宅支援に、子ども居場所事業も学校の休校にあわせて休所とし、家庭にお弁当を届けるようにしました。農作業を中心としている事業所は畑での作業やパインの箱詰めなどで作業を続けましたが、観光ショップや居酒屋は観光客の来島停止にともない休業となり、売上は昨年同月比で9割減です。

代表の津嘉山さんは「観光が復活するのは3年くらいかかるかもしれません。農産加工品を生産しても、うちの場合は観光とセットなので販売できない。中小企業が多い沖縄ではすでに倒産も始まっています。しかし、コロナを理由に離職させない、給料の減給をしない、今こそ人と人との距離を大切に支え合うことをみんなに伝えています」と話しています。

就労継続支援A型、B型、就労移行支援

（社福）エルム福祉会 hikari no café蜂巣小珈琲店／栃木県大田原市

カフェ運営・パンやスイーツの製造販売

いつもと変わらない気持ちで

新幹線の那須塩原駅からバスで約30分、バス停から10分ほど歩くと広がる田園風景の中に旧蜂巣小学校があります。小学校をリノベーションしてカフェとパンやスイーツの販売を行う「hikari no café蜂巣小珈琲店」。当財団の助成で、家庭科室をパン・スイーツ工房に改修し、利用者さんも増え順調に売上を伸ばしていました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響はここにも襲ってきました。昨年の同月比でカフェの売上8割減、パン・スイーツもカフェにお客さまがいらっしゃらないので、5割減となりました。「カフェのA型利用者は半日出勤、半日有給で100%の給料を確保しましたが、パン・スイーツ工房のB型・就労移行の利用者の給料も減らないよう、売上を挽回することで解決しようと考えました」と川上聖子施設長は話します。法人内の販売をはじめ、SNSを使い販売を強化。2種類のテイクアウトランチも販売しました。特に変更したふるさと納税の返礼品と、大田原市庁舎でのパン・スイーツ販売は好調です。

売上もお客さまも減りましたが、職員はいつもと『変わらない』という意識で、今できることを精一杯やろうと、利用者さんに伝えています。

就労継続支援B型

（NPO）五島あすなろ会 五島あすなろ作業所 大志／長崎県五島市

うどん製造販売・飲食店経営ほか

ネット販売促進とマスク製作

長崎県の福江島で伝統の手延べうどんを製造し、うどん屋を営む五島あすなろ作業所。福江島ではコロナ感染者はゼロですが、感染が広まると島内での対応が難しく、入島が制限されている状況です。うどんの卸先の飲食店やホテルなども休業で、観光客の売上が見込めず、受注は激減。巣ごもり需要を見込みネット販売に力をいれて売上対策を講じています。

うどん製造が減り余力が生まれ、縫製工場で働いていた利用者さんの経験を活かしてみんなでマスク作りを学び、島内の衣料店などへ委託販売を行っています。

就労継続支援B型

（NPO）農楽郷ここ・カラダ／青森県十和田市

ニンニクの生産・販売

コロナは農業の強さと地方の価値を知る機会

ニンニクの販売は中間業者を通さず、直接首都圏の餃子専門業者と安定した取引をしているため新型コロナウイルス感染拡大のこの時期でも0.5割減で済んでいます。

職員や利用者さんには、感染予防の免疫力を高め、商品の効能を知るために自社製の黒ニンニクを毎月500グラム配布して食べてもらっています。そのせいもありみんな元気に普段通り農業に従事。

コロナ問題は大変な試練ですが、農業の強さと地方の価値を改めて知る良い機会になったのではないかと思います。

就労継続支援A型

（同）ロイヤルウォッシュ／大分県豊後大野市

クリーニング業

今は、耐えるしかない

「ともかく耐えるしかありません」と話す、合同会社ロイヤルウォッシュの宮迫奈緒美副代表。ロイヤルウォッシュは、豊後大野市を拠点に別府から湯布院、県を超えて黒川温泉まで、約170施設のホテル・旅館のシーツ・タオル・浴衣など、「おんせん県おおいた」を陰で支えるリネンを中心としたクリーニング業を行っています。新型コロナウイルス感染拡大で、観光地のホテルは営業自粛中のため、仕事としているクリーニングも止まってしまいました。洗濯量は1日約2万枚、重さにして10トンあったものが、今は6割以上減っています。

23名のA型利用者さんに支給する平均月給が9万円を超えるロイヤルウォッシュに、当財団では、作務衣などの畳みを自動化するガウンフォルダーの購入費用を助成しました。ホテルや旅館のリネンに加え、増えてきた高齢者施設の私物クリーニングに、人員を配置し、さらなる給料アップを目指していたからです。給料は国の雇用調整金を利用し、現状を乗り越えようと考えていますが、未だ対応が遅れています。

「時間がかかるかもしれませんが、観光業の復活を待ちます」

就労継続支援B型

（NPO）聲明会 フラワーコート米沢／山形県米沢市

クロネコDM便配達、内職

空き時間に寺院用具の組み立て作業を

クロネコDM便は5月に入ってから配達量が減りましたが、マスクを着用し、いつも通り元気に配達しています。

縫製会社からの内職はその会社自体が休みとなり仕事がなくなりました。そこで空いた時間を利用して寺院用具の作成・組み立て作業を行っています。すぐには販売できなくとも将来の売り出しに備えた作り置きとするつもりです。

就労継続支援B型、生活介護

（社福）いわて共生会 あけぼの／岩手県北上市

クロネコDM便配達、食品加工

元気にクロネコDM便配達！

クロネコDM便の配達量は2～3割減りました。冊数は減ったものの利用者さんは健康観察を行いながらいつもと変わらず元気に配達しています。最近は少しずつ配達冊数が増えてきました。

またイベントでキムチなど加工食品を販売していましたが、開催できないため、売上が減らないよう花の栽培の手伝いなど、他の仕事にも取り組んでいます。

就労継続支援B型

（社福）ゆずりは会 障害福祉サービス事業所菜の花／群馬県前橋市

農業

農業は外で元気に作業！

タマネギをJAに出荷しているのですが、コロナの影響で価格が非常に安くなり、売上は5割減です。販路開拓の努力はしていますがなかなか難しい。

しかし事業所全体としてはあまり悪い方への雰囲気の変化もなく過ごすことができています。農作業は活動自粛を求められないので利用者・職員ともに外で元気に活動できるのが大きなメリットです。

就労継続支援B型、生活介護

（社福）愛生会 ワークセンターつばき／青森県五所川原市

クロネコDM便配達、野菜の洗浄袋詰め、他

マスク、手洗いの徹底でクロネコDM便配達

ゴールデンウィーク明けにはクロネコDM便の量がだいぶ減りましたがその後は元に戻りつつあります。配達時には国から配布された洗えるマスクを着用し、手洗いを徹底して気を付けて配達しています。

農作業は外での自然相手の仕事なのでコロナの影響はあまり受けませんでした。

事業所に大きな変化もなく普段通りに活動できていることは良かったと思います。

就労継続支援B型

（NPO）やすらぎ やすらぎ作業所／広島県呉市

レモン収穫・袋詰め販売、カフェ事業他

レモン事業は順調、新しい休憩室も完成

カフェの来客は半減しましたがテイクアウトで何とか1割減に抑えられました。下請け作業は近隣の作業所が閉所したので1割増。レモン事業は順調です。ゴールデンウィークまでがピークで取扱量は昨年より少し多く大変忙しい時間でした。

新しい休憩室が完成してそこで休むことができるようになりました。今年中には建物の改築も予定しています。

就労継続支援B型

（NPO）生活自立研究会 富浦作業所／千葉県南房総市

パン・クッキー、びわ葉茶、さをり織の製造販売

第2波への備えを

各種イベントが皆無となり、売上は6～7割減りました。個人のお客さまが頼りですがその他には打つ手がありません。

第2波の感染拡大を防ぐためには、正確な情報を確保することと必要な衛生用品（マスク、アルコール消毒液等）の備えを万全にすることと新型コロナウイルスに対抗するための人々の総合連帯力が必要になると思われます。

就労継続支援B型、生活介護、就労移行支援

（社福）若竹福祉会／沖縄県浦添市

レストラン及び配食事業、菓子製造販売他

マスク製作で明るい兆しが

レストランは一時臨時休業し、弁当は販売先の学校が休校し食数が激減、観光客が使用するレンタカーのチャイルドシート洗浄はほとんど無く売上は昨年同月比3割減となりました。

対策はレストランのスペースを活用したマスク製作。近隣に声がけし寄付された生地を材料にしました。このマスクを近隣自治会の販促会で販売したところ、ある企業から大量受注し市内の福祉施設と協働製作し納品。その企業から地元の福祉施設に工場の仕事を手伝って欲しいと申し出があり、明るい兆しが見えています。

就労継続支援B型

（社福）新潟市中央福祉会 ワークセンターひがし／新潟県新潟市

ウエス加工業、施設外就労

施設外就労対策、園芸も始めました

ウエス加工の材料が激減して受注は8割減。材料になる医療現場で使われた浴衣やタオルがコロナ対策ですべて廃棄処分となり、旅館のリネン類は観光客がいないので出回りません。公共事業の施設外就労を増やす交渉をし増収対策をしています。利用者さんを元気づけるため事業所の花壇で園芸を始めました。収穫したら調理実習をやろうと盛り上がっています。

奨学生も負けていません。

全国の大学で始まったオンライン授業。奨学生も例外ではありません。事務局では、4月1日現在、在籍している29名の奨学生にも緊急聞き取り調査を実施。浮かび上がってきたのは、大学の協力も得ながら不自由な環境で勉学に励む姿でした。ヤマト福祉財団では29名の奨学生に10万円の「緊急見舞金」を支給。さらに点字翻訳機などハード・ソフトを買い替える学生2名には、「特別支給金」10万円を加算しました。

就労継続支援B型、生活介護、他

（社福）三木市社会福祉協議会 はばたきの丘／兵庫県三木市

安全用品の組立、梱包

良い環境で仕事ができて受注1割増

昨年度は、利用者さんの人員変更と日頃の育成支援が実を結び、生産能力、質ともに高める事ができました。コロナ禍の中でも単価の高い仕事を受注して昨年同月比で1割増となっています。リーダー格の利用者さんも増え良い環境で仕事ができていることも要因です。休所しなかったことで利用者さんも働く意欲を見せ、検温も進んでするようになったのは良かった点です。

就労継続支援B型、就労移行支援、他

（社福）福成会 チャレンジ・コヤリバ／兵庫県尼崎市

受託作業（機械部品の梱包、箱折り）他

受注量を減らさないために

出勤者を2割の6名に抑えるため、利用者さんには自宅待機、時間短縮、日数削減などを行ってもらいました。そのため受注量は3～4割減。利用者さんの通所人数減を補い、受注量を減らさないために職員が作業を分担しました。また、自宅待機中の利用者さんの状況把握のためにチェックシートを作成。職員が電話で本人の体調や精神状態を確認する材料にしています。

就労継続支援B型、生活介護

（NPO）バイタルフレンド マザーワート／長崎県佐世保市

パン製造販売・レストラン・下請け

パン販売は道の駅で好調

4月に市内で感染者が出たため昨年同月比でレストランは6～7割減、下請けの仕事はなくなってしまいました。

しかしパンの販売先である式場や幼稚園が休業のため激減したものの、道の駅での販売が大幅に増えたため5割増と好調で、パン事業は利用者さんにこれまで通りの給料が払えています。

また、コロナ対策の衛生用品を販売する新事業も企画しているところです。

就労継続支援B型

（社福）武蔵野千川福祉会 チャレンジャー／東京都武蔵野市

DMの封入・封緘、発送代行事業

前向きな気持ちで、巻き返します

不動産業のDMを中心に広告の自粛が行われ受注は3割減となり、作業量にあわせて就業時間を短縮しました。マスクの臨時発送業務を受注して、解除後はさらに巻き返しを図ります。

利用者、職員とも、コロナ禍でも開所し事業を続けられた事に感謝し、前向きな雰囲気があります。新生活様式でのゆったり食べる昼ご飯は好評です。

就労継続支援A型

（NPO）美作自立支援センター／岡山県美作市

自動車部品ネジ検査、農業、繊維加工

チームを越えてみんなで農業、農地拡大を

美作自立支援センターは、設立当初からの繊維加工に加え、現在主事業となっている自動車部品検査、農業と仕事の幅を広げてきました。月額平均工賃は12万円以上。将来を見据え、農業用の田植機やコンバイン、脱穀機などを当財団の助成で揃えた矢先のことでした。新型コロナウイルスの影響で検査部門の受注が減少してしまい事業所の売上が5割近く落ち込むこととなりました。工賃は内部留保を取り崩して対応しています。

しかし、悪いことばかりではありません。農業チームは忙しいこの時期に他事業チームの利用者さんや職員にも作業を手伝ってもらい、4月5月の売上が前年度比で10%近く上昇するという嬉しい結果となりました。また、農作業を通じ、普段の部門を越えた交流も生まれてきました。

就労継続支援B型、生活介護

（社福）あおぞら福祉会 フォルムののシティ／石川県野々市市

カフェ、菓子製造、他

プラス思考で整理整頓

カフェの閉店などにより売上は5割減となりました。テイクアウトのナポリタンやパフェを始める予定です。

状況は厳しいですが、そこを逆にプラスにとらえて前に進みます。空いた時間で事業所内を整理整頓できました。利用者さんの送迎もご家族の協力や送迎車の2巡回で3密化を避けることができ、徐々に平常に向かっています。

寄稿

新型コロナと障害者

藤井 克徳（きょうされん専務理事）

リスクの多い障害者

私たちの社会では、とんでもないことが起きるものです。東日本大震災と直後の福島原発事故の衝撃と傷口が癒えないうちに、今度は新型コロナウイルスの急襲です。あれよあれよという間に日本列島を覆い、世界中を恐怖と辛苦の渦に巻き込んでいます。

コロナの問題は、社会の隅々を侵蝕しています。今回もまた例外ではなく、高齢者や持病のある人と並んで、障害のある人に影響がより強く表れています。東日本大震災で、障害者の死亡率が全住民の死亡率の2倍に及んだことは、記憶に新しいところです。新型ウイルスの問題についても同様です。先の見えないコロナ問題ですが、現段階で表面化している心配事や実態について報告します。大きく三点で述べたいと思います。

一つ目は、障害のある人のリスクについてです。自身の例で言いますと、私は光も感じない全盲の状態です。感染拡大が始まった頃からずっと恐怖心が付きまとっています。触ることが有力な情報源で何かと物に触れることが多い、電車内で安定を保つために吊革や支柱を握らざるを得ない、密接を前提としたガイドヘルパーによる支援など、リスクだらけと言っていいかもしれません。密接や密閉の恐怖は、ガイドヘルプだけではなく室内でホームヘルプを利用するすべての障害のある人に共通します。

情報面でもリスクはいっぱいあります。問題となっているのは、重要な会見などの報道で手話や字幕が十分でないことです。総理の会見はだいぶ改善されましたが、生活に身近な自治体の会見での対応はまちまちです。情報と言えば、機敏に動けない障害者にとって、スーパーマーケットやドラッグストアでのマスクやアルコールの売り出し情報には、悔しさや情けなさを募らせるだけです。

なお、感染拡大が始まって以来ずっと横たわっているのが、個々の支援と密接リスクの関係をどうするのかという問題です。支援を受ける側だけではなく、支援する側も不安と緊張を抱くのです。改善策はあります。その一つは、双方に対して、くり返しのPCR検査（抗原検査や唾液方式を含む）を行うことです。状態を正確に知ることが、その後の的確な医療支援をもたらし、不安や緊張の緩和にもつながるはずです。

後味の悪い社会としないために

二つ目は、仕事への影響です。全国的にみられるのは、「自粛要請」によって、事業所へ通うこと自体が難しくなっていることです。都市部では休業のところが目立ちます。開所しているものの、三密を防ぐために出勤者を大幅に制限するところも数多く見受けら

れます。

共通の傾向は他にもあります。仕事が急減していることです。サプライチェーンの一角を担っている親会社が不調に陥り、影響をまともに受けているところが多くあります。「食」をテーマにしている作業所も大苦戦です。弁当やパン、クッキー、焼き菓子などの販路が絶たれてしまったところ、休業に追い込まれたレストランや喫茶店もあります。

影響の表れ方は、地域や仕事の種類などによって異なります。総じて言えることは、利用者給料の財源が確保できなくなっていることです。作業所の多くは、就労継続支援Ｂ型事業です。Ｂ型事業は、労働法規の対象ではなく、雇用調整助成金のような労働者一般に適用される救済制度は使えません。皮肉にも高工賃のところほど影響が大きいのです。一部の自治体で工賃補填などの支援策の模索が始まりましたが、ここは厚労省の積極的な対応が期待されます。

三つ目は、いわゆる「命の選別」の問題です。具体的には、限られた人工呼吸器や人工心肺装置の使用順番の序列化をどうするのかという問題です。今回の新型コロナウイルスとの関連で、欧米の一部では、医療資源の使用順位を明確にしたところが出始めています。これらに共通するのは、救済すべき層のトップランクに医療従事者を位置づけ、後期高齢者や障害者は一番後回しになっていることです。

日本でも、「議論を開始すべき」とする意見が一部で表面化しています。重いテーマで、簡単に結論が出る問題ではありません。ただし、はっきりしていることがいくつかあります。第一は、医療資源が充足していれば問題は起きにくいということです。第二は、いったん「命の選別」が始まると止まることがないということです。仮に社会の特定の層が無くなったとすると、今度は次に「弱い者」を探し出すのです。弱い者探しの連鎖が起こることは歴史の事実からも明らかです。第三は、コロナ騒動が去った後をイメージすることです。後味の悪さのみが残るようでは、コロナ問題に本当に向き合ったことにはなりません。

コロナ時代にさしかかっている今、忘れてほしくないフレーズがあります。それはかつて国連が提唱した「一部の構成員をしめ出す社会はもろく弱い」です。

Profile

1949年福井県生まれ。1970年東京都立小平養護学校教諭。1981年きょうされん事務局長。1982年あさやけ第二作業所（精神障害者共同作業所）施設長。2020年現在、NPO法人日本障害者協議会代表、日本障害フォーラム副代表、きょうされん専務理事。

※障がいの表記について：著者の表記を尊重しています。

在宅支援中に育ててきた野菜の苗をその手に

約50日ぶりにおもやの田畑へ利用者さんたちが帰ってきました

「やっぱり畑は、気持ちいい！」。6月1日、（NPO）縁活・おもやの利用者さんたちは、青空の下で約50日ぶりの農作業に戻ることができました。おもやは、新型コロナウイルスの感染から利用者さんとスタッフを守るため、4月14日より休所していました。利用者さんは、土を入れたポットに自分が担当する野菜の種を植え、自宅で大切に育てながら農作業再開の日を心待ちにしていたのです。

待ちに待った農作業に、みんなの笑顔があふれています。おもやに元気が戻ってきました！

早く通所したいと願う利用者さんと通所に不安を訴えるスタッフの狭間で

おもやが休所に踏み切ったきっかけは、一人の利用者さんのご家族が仕事先で新型コロナウイルスに感染されたとわかったからです。

「ご家族に陽性反応が出る前日まで、その利用者さんはおもやで元気に働いていました。保健所から、2週間はおもやの全員が自宅待機で様子を見てほしいと要請されましたが、幸い新たな感染者は現れずホッとしています。感染されていた利用者さんもご家族も無事に退院されました」。

おもやでは、その後も利用者さんの安全を守るため、自発的に休所を続ける決断を下します。

「じつは、休所する数日前から、電車で通所されている方を在宅勤務にしてはと、いろいろ調べていたのです。事業所を止めながら在宅支援する方法は、それぞれの市町村によって異なります。それを事前に確認していましたので、ご家族にも安心・納得いただけるスムーズな対応ができました。しかし、本当に大変だったのは、働きに来てくれているスタッフ一人ひとりの不安を払拭することだったのです」。

もしも自分が新型コロナウイルスの感染者になってしまったら、家族の仕事にも影響してしまうし、幼い子どもや年老いた親などの世話はどうしたら良いのか。「だれが悪いわけでもない」と頭ではわかっていても、目に見えない敵への不安はどんどんふくらんでいきます。「いまは私たちも自宅待機を」と希望するスタッフも多く、杉田さんは限られたスタッフと連携し、毎日午前と午後に利用者全員へ見守りの電話をかけ、在宅支援を続けます。

「利用者さんは、作物の様子が気になって仕方

ありません。畑に戻りたくてうずうずしています。その気持ちを我慢してもらい、スタッフと力を合わせて草刈りや定植準備を行いました」。

こんなときだからこそ、私たちも地域の農業も変わらなければならない

おもやが年間に栽培する作物は約50品目。「その一部でこれだけ大変だとは」と苦笑いする杉田さん。今回、スタッフだけで作業を行い、いろいろ再認識できたこともあったと話します。

「利用者さんの力にどれだけ頼っていたのかが良くわかりました。そして、利用者さん一人ひとりが力を発揮できる支援をするためには、スタッフを守ることも大切なのだと痛感したのです。早速、在宅待機しているスタッフとネットでリモート会議。利用者さんの自宅支援をどのように続けるか。再開できた際に全員が安心して働けるにはなにが必要か。意見を出し合い感染防止マニュアルも作りました」。

コロナウイルスは、杉田さんと一緒に働く仲間であるスタッフの間に、いつしか「雇う側と雇われる側」という溝までつくっていました。

「必要なのは、雑談でも良いから気軽に話せる時間だったのです。そこで出てきたアイデアを実行することで〝話して良かった〟そんな雰囲気に戻りました」。

これまでもさまざまな苦労や失敗を乗り越えて、おもやのいまがあります。なかなか土地を貸してもらえず、施設から遠く離れた山中にしか農地を開墾できなかったこと。朝から日が暮れるまでひたすら草むしりを続けたこと。新たに自然水稲栽培をはじめたときは、育苗土づくりすら上手くいかずに試行錯誤を繰り返しました。他にも害虫・害獣の被害などもありました。

「でもね、イノシシが作物を食い荒らすからと、アクの強いコンニャク芋を植えたおかげで、新たにコンニャクづくりもはじまったわけです」と杉田さんは笑います。どんな逆境もバネにして成果を出すのは、おもやの十八番です。

杉田さんは、2年前に認定農業者となり、さらに今後の地域農業のあり方を考え、活性化する農業委員にも選ばれています。

「いまはだれもが大変なときですから、私たちも、地域の農家も、互いに知恵と力を出し合い変わっていかなければなりません。人と人とのつながりの大切さは、自然栽培パーティに参加し実感しています。収穫の喜びをわかち合い、どんな苦労も笑い話に変えてしまえる仲間が全国に広がったこと。困ったときにはなんでも相談でき、協力し合える頼もしい仲間を得たことこそが、最大の収穫だと思っています」。

6月1日、利用者さんとスタッフは、ソーシャルディスタンスを考え、午前と午後のグループに分かれて久しぶりに農作業を再開しました。

「みんな良い顔をしていますよね。今回は、利用者さんやスタッフが働く意味を改めて考える良い機会にもなりました。お金を稼ぎ生活することはとても大切ですが、働く目的・喜びはそれだけではありません。それを共有できたら、みんなもっと豊かな気持ちになれるはず。そのためにおもやにできることとはなにか…。まだその答えを発見できていませんが、みんなと一緒ならきっと見つけられると思っています」。

利用者さんが育てた野菜の苗の定植や田植えの準備、キュウリやトマトの夏野菜もこれからが本番。今年の夏も忙しくなりそうです。

（NPO）縁活 おもや（滋賀県栗東市）

DATA

・事業形態：就労継続支援B型
・事業内容：農業（自然栽培／水稲、50品目以上の野菜、ドライイチジクやコンニャクなどの加工品）
・耕作地：200a（畑150a・田んぼ50a）
・利用者人数：定員26名
・2019年度売上（見込み）：1,500万円
・2019年度月額平均給料：28,000円

2011年、滋賀県では先例の少ない農業を事業の柱にした福祉事業所へ。農家である父の影響もあり「自然と向き合い、汗を流し作物を育てる喜びを利用者さんとわかち合いたい」とおもやを立ち上げた杉田代表理事。当初は農地すら思うように借地できない厳しいスタートでした。やがて自然栽培と出会い、商品価値の高い農作物を育てることで売上も次第に上向きに。毎日、土に触れ笑顔で働く利用者さんの姿を見てきた周りの農家からも「地元でともに農業に取り組む仲間」と認めてもらえるようになり、農地も拡大。現在は自分たちが栽培した作物を調理し提供する「オモヤキッチン」も運営し、地産地消の促進にも貢献しています。

障がい者の自立のため福祉助成金はどのような仕組みで活用されているかご存じですか？

「障がいのある方の幸せな生活を築くために役立ててほしい」。そんな思いが込められたヤマトグループの賛助会員からの賛助会費、ヤマトグループ企業労働組合連合会からの夏のカンパなどをもとに、私たちはより効果のある、意義のある事業活動の推進を追求しています。

では「どのような事業を、どのような仕組みで推進しているのか」。ここでは、財団のしごとをピックアップし、その流れ・仕組みまでも解説。みなさんの寄付が形になっていく姿をお伝えします。

今回取り上げるのは、財団の事業の柱の一つ「福祉助成金」です。

「福祉助成金」が変わります

みなさんのご厚意のもと福祉助成金は、2020年度で27回目、助成金の累計総額は17億1,587円となりました。今後は「障がいのある方が自立して生活することでもっと幸せを感じられるように、よりさまざまな用途・角度から福祉施設・団体のお手伝いができるように」、福祉助成金の仕組みなどを見直しました。その内容は、障がいのある方々の給料を増額するための新規事業の立ち上げや生産性向上に必要な設備や機器を購入する資金「障がい者給料増額支援助成金」と、障がいのある方々の福祉を増進するための事業や活動の資金「障がい者福祉助成金」の二つです。2021年度の募集要項はホームページに掲載。助成を必要とされる施設・団体を募集します。

2021年度の福祉助成金は…

ヤマト福祉財団助成金

障がい者給料増額支援助成金
（助成金額50万円～上限500万円）
障がい者の給料増額に努力し取り組む事業所・施設に対し、さらに多くの給料を支払うための事業の資金として助成。

障がい者福祉助成金
（助成総額1,000万円）
会議・講演会、ボランティア活動、スポーツ活動・文化活動、調査・研究・出版など、障がいのある方の幸せにつながる事業・活動に対して助成。

27年間の福祉助成金で…

助成金累計総額	助成先累計件数
17億1,587円	2,141件

基本的な助成までの流れは…

公正な選考により助成先を決定します

1 助成を求める福祉施設が申請書を提出

●助成に該当する事業・給与実績はあるか？
●どんな設備や機器が必要なのか？
●効果の期待できる事業計画なのか？
●売上・給料の増額の見込みは？
●使途・試算は明示できているか？

▶ 利用者支援と事業経営の両観点で条件を満たすかを検討

2 書類選考を行います

●申請書の情報を確認していく。
●施設を取り巻く環境は？
●利用者さんの働きぶりは？
●職員の支援のあり方は？
●いつ、どこに、どのように設備などを導入するのか？

▶ 申請書を確認し、助成先を絞り込みます

3 選考委員会で決定後、各地で贈呈式を行います

●最終選考に残った福祉施設を第三者による選考委員会が審議。
●視察報告等をもとに公正に助成先を決定。
●助成先に結果を伝え、本誌、HPで公表します。
●助成金贈呈式を行います。

▶ 本当に正しく効果的に活用できるかを討議し助成先を決定

贈　呈　式

4 実際の導入状況を確認します

●助成事業の進捗を実施報告書で提出。
●一部の助成先を訪ね、本誌「助成先レポート」で報告します。
●平均工賃が3万円以上に達した施設はヤマト福祉財団ホームページの施設紹介サイトに掲載。

▶ 計画通りに設備などが導入・活用されているかを確認

コロナのいまも、あのときの助成が利用者さんの幸せを支えています

助成後、福祉施設では、利用者さんの仕事ぶりや給料などはどう変化したのだろうか。いまもその助成は役立っているのだろうか。現在、新型コロナウイルスの影響を受け、助成先はあの頃とは異なる状況下に置かれています。そこでインターネットを使ったリモート取材で、二つの助成先施設にお話を伺ってみました。

2013年度に助成金で整備した新品種のナシ園（左上）は、利用者さんみんなの力で、大きく育っています(右上)

（NPO）ピアファーム
（福井県あわら市）

丘陵地帯の休耕地を利用者さんたちと力を合わせて果樹園に再生したピアファーム。2011年には農水省の「認定農業者」の認定も得て、農福連携が注目される前から本格的な農業経営を進めてきました。「市場でも珍しい新品種のナシなら、通常より高い単価での販売も容易」と2013年度ジャンプアップ助成（500万円）で「新品種梨 導入事業」（新品種のナシ苗の購入、ナシ棚の整備など）を開始。2019年度の平均月額給料は45,489円になっています。

DATA

・2013年度ジャンプアップ助成金：500万円
・助成内容：新品種梨 導入事業
・事業形態：就労継続支援B型
・事業内容：農業（ナシ、ブドウ、路地野菜の栽培）
・利用者人数：定員20名（現員24名）
・2019年度売上（見込み）：4,376万円
・2019年度月額平均給料：45,489円

※もう一つの事業の柱「産直市場ピアファーム（スーパーの経営）」と合わせると昨年度の売上は1億2,300万円です。

助成で「自動重量検査装置」（上）を導入。機械化でスピードアップと一人ひとりの作業品質が向上しました

（社福）ゆたか福祉会 ワークセンターフレンズ星崎
（愛知県名古屋市）

DMの封入封かん業務を事業の柱に、売上拡大と給料増額を進めてきたワークセンターフレンズ星崎。それを後押ししたのが、2016年度ジャンプアップ助成金で購入した「自動重量検査装置」です。正しく計量・検査できる人しか担当できなかった検品作業が、この装置の導入でだれでも簡単・スピーディに行え、作業の効率と品質を確実に向上。その成果は数字にも現れ、2014年度月額平均給料32,150円から、2019年度は51,495円へと増加しています。

DATA

・2016年度ジャンプアップ助成金：500万円
・助成内容：自動重量検査装置の整備
・事業形態：就労継続支援B型／生活介護／就労移行支援
・事業内容：DMの封入・封かん
・利用者人数：15人
・2019年度売上：1,961万円
・2019年度月額平均給料：51,495円

助成いただいた新ナシ園は私たちの事業の旗印

…新型コロナの影響は、利用者さんやナシ園に出ていますか?

「ナシはコロナと関係なく、順調に育っていますよ。5月中旬現在は、甘く大きな実となるようにつぼみの数を減らす摘果の真っ最中です。利用者さんの健康管理には細心の注意を払い、出勤前は必ず検温し、3密にならないように作業しています」。

…観光農園も運営されていましたが。

「毎年、夏に開園していますが、今年はどうなるかはまだわかりません。しかし、こちらから販売を仕掛けていこうと事業計画を立て、すでに1月から段取りを含めて動いています。何と言っても〝販売あっての農業〟ですから」。

…〝売り切る覚悟〟でしたね。

「助成いただいたナシ園は、まさにその象徴です。3年前から徐々に収穫できるようになり、商品価値の高い新品種のナシは、売れ行きも好調です。いまは10a(1反)あたり30万円の収益ですが、いかに※成園するかで80万円以上に、200万円も夢ではありません。しかもナシ棚の寿命は20年くらいと言われていますが、やり方次第で50年以上も長く収益を上げ続けることができます。それがお米や野菜とは違う果樹園の面白さであり、可能性は無限大です」。

…特別な栽培方法が必要ですか?

「ナシ栽培の基本=ルーチンワークを守っていくことです。たとえば、日々丁寧に落ち葉を掃き掃除すれば、病気を防止できます。健康で良い品質のナシなら、同じ面積でも出荷量が増え収益率も上がります。しかし、人手が足りない農家では、こうした手間のかかる作業は難しいのですが、うちには農業を楽しみに働くたくさんの利用者さんがいますからね」。

…利用者さんへの技術指導は?

「利用者さんは、各人のやりやすいやり方で働いていますが、先ほどのルーチンワークを外さなければ、自然に栽培技術も身に付いていきます。私たちの考えに賛同しパートなどで協力いただくベテラン農家の熟練した技、やり方も良いお手本です」。

…地元の農業にも貢献していくと。

「あわら市では、農家も、育ててきたナシ園も段々と歳を重ね、若い力が必要とされています。私たち福祉施設も、もっと地元に貢献したいと考えていますが、その気持ちをこの助成が後押ししてくれているのです。助成金の看板を見ることで〝ここはきちんとやってくれる施設だ〟と地元のみなさんに信頼いただくことができる。私たちにとっては、錦の御旗のような存在ですね」。

※成園とは、費用がプラスになり利益が出た果樹園のこと。

仕事のありがたさを再認識 新たな領域にも挑戦したい

…新型コロナの感染拡大で利用者さんや仕事への影響はありますか?

「愛知県は新たな感染者の数も減り(5月11日取材時)、利用者さんのほぼ全員が元気に通所しています。ただし、仕事量は通年の半分以下に。春先に行っていた大学のオープンキャンパスの案内など、GW向けイベントの大半が、自粛のためキャンセルになってしまいました」。

…昨年の新堂塾のフォローアップ研修では「直受けのお客様も増えて好調」と伺ったばかりでした。

「助成で導入した自動重量検査装置も活用し、生産効率と品質の両方のレベルが上がっています。これを武器に営業をかけ、直受けのお客様は約23社まで増えました。一社の受注量は多くありませんが、単価が高いので売上は増加していました」。

…助成の成果が出てきていたと。

「導入前の検品作業は、正確に計量・判断できるノウハウを持つ利用者さん2名と職員が担当してやっと毎時1000通ほど。その作業を助成していただいた機械を使うことで、利用者さん一人で毎時3000通もこなせるようになりました。いままで検品を担当していた利用者さんは、職員が行っていた区分けや資材準備などの難しい仕事へ。利用者さんの仕事領域は広がっています。利用者さんの中には、もっと上手く仕事をこなせるようになりたいと、自分に合う指サックやペンなどの道具を給料で購入する方も。一人ひとりの取り組み姿勢と能力が向上し、確実に生産量も増えてきています」。

…せっかく良い流れになっているのに、つらい状況ですね。

「仕事の大切さを、職員も利用者さんも痛感しています。でも落ち込んでいても仕方ありません。この機会に、利用者さんの仕事のスキルを高めようと勉強会を開いています。職員も同様です。若い職員の中には、利用者さんが働くための支援やDMの封入封かんについての専門知識が不足している者もいます。そんな職員の意識改革や教育も、いまのうちに進めているところです」。

…今後の展開としては?

「私たちの強みである品質の高さとスピード感で、一つひとつ仕事を取り戻していきます。そのときには、自動重量検査装置にもしっかり活躍してもらわないと(笑)。今後はDMで築いたお客様とのつながりを活かし、ロジ的な仕事への参入も視野に入れています。みんなで力を合わせて挑戦あるのみ、ですね」。

ヤマト福祉財団 NEWS No.67
7月20日発行 2020 Summer
公益財団法人ヤマト福祉財団

第21回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 募集

正賞：雨宮 淳氏作　ブロンズ像「愛」
副賞：賞金100万円
募集期間：2020年7月1日～9月15日

ヤマト福祉財団では、障がい者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障がい者に働く喜びと生きがいをもたらしている人の中から毎年2名の方に『ヤマト福祉財団小倉昌男賞』を贈っています。障がい者の自立支援などで、「この人をぜひ・・・」と思われる方をふるってご推薦くださるようお願いいたします。
詳しくはホームページをご覧ください。

2020年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム　開催のご案内

テーマ「自立して生活することで幸せを感じられる」

新型コロナウイルスによる健康被害、休業や風評被害など多様な被害にみまわれた方々にお見舞いを申し上げます。

毎年、より幅広い参加者をむかえ、各地で実践報告を行う場として開催するパワーアップフォーラム。今年は、感染防止策などに十分配慮した方法で、人数を絞って開催します。

東京会場	
日時	9月25日（金）
場所	全社協・灘尾ホール
定員	45名

大阪会場	
日時	10月2日（金）
場所	大阪ガーデンパレス
定員	70名

福岡会場

2021年2月を予定しています

お申し込みについて

参加対象： 障がい者の仕事づくりや働く場に関心のある方々の幅広いご参加をお待ちしています

費　　用： 参加費無料
※行政の自粛再要請により中止となる場合があります

参加登録方法： 詳しくはヤマト福祉財団のホームページをご覧ください

ヤマト福祉財団　検索

つたわるフォント 読みやすさを追求した書体
VEGETABLE OIL INK

詳細情報・最新情報は https://www.yamato-fukushi.jp/
ご意見、お問い合わせは y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp まで